

# 林業・木材産業成長産業化促進対策交付金の取組事例（令和元年度）

## 事業概要

林業機械作業システム整備（高性能林業機械等の整備）

事業実施主体：浮羽森林組合（福岡県）

成果目標：①素材生産量 現状値（H27～H29） 10,019m<sup>3</sup>  
 目標値（R6） 15,100m<sup>3</sup>  
 ②素材生産性 現状値（H27～H29） 5.3m<sup>3</sup>/人・日  
 目標値（R6） 7.5m<sup>3</sup>/人・日

導入施設等：ハーベスタ、フォワーダ



（ハーベスタ：伐倒・造材）



（フォワーダ：積込み・運搬）

## ポイント

### 【取組概要】

新たにハーベスタとフォワーダを導入し、伐倒から運搬までを2人体制で行う作業システムに変更。

### 【成功のポイント】

ハーベスタが伐倒から造材をカバーすることで、生産性を向上させることができた。また、大型機械導入により、より大きな径級の伐倒・造材や、効率的な運搬ができるようになった。

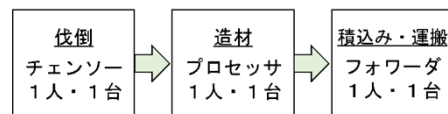
## 事業効果

### 【事業実施による効果】

効率的な作業システムを導入することにより、素材生産量と素材生産性が増加した。

**素材生産量が28%増加**  
 （R3実績値12,823m<sup>3</sup>）  
**素材生産性が62%増加**  
 （R3実績値8.6m<sup>3</sup>/人・日）

### 従来型作業システム（3人1セット）



### 新作業システム（2人1セット）



## 事業概要

木材加工流通施設整備（木材加工流通施設等の整備）

事業実施主体：ウッドリンク（株）（富山県）

成果目標：地域材利用量 現状値（R1） 44,000m<sup>3</sup>  
 目標値（R7） 54,000m<sup>3</sup>

導入施設等：木材乾燥機4基、ギャングリッパーほか



（木材乾燥機）



（ギャングリッパー）

## ポイント

### 【取組概要】

平成20年より輸入材から国産材製材への材料転換の取組みを進める中、人工乾燥能力がボトルネックであったため乾燥機を増設。また、ギャングリッパー導入により、製品生産能力も増強。

### 【成功のポイント】

施設整備による地域材の需要増に対して、原木を安定的に調達できるよう川上との関係を強化。  
 大径材の有効利用のため、根張カッターを導入。

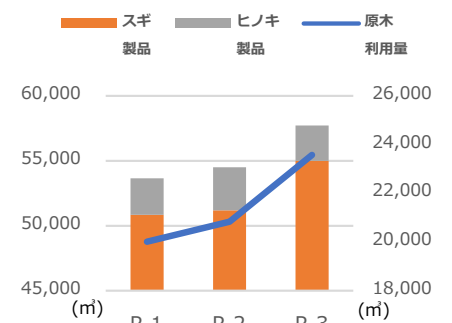
## 事業効果

### 【事業実施による効果】

施設整備により地域材利用量が増加。乾燥品質が安定し、歩留向上。製品生産量が増加し、ウッドショック時の国産材シフトによる需要増にも対応。

**地域材利用量が26%増加**  
 （R3実績値55,453m<sup>3</sup>）

地域材利用量と樹種別加工量



# 林業・木材産業成長産業化促進対策交付金の取組事例（令和元年度）

## 事業概要

木造公共施設整備（木造公共建築物等の整備）

事業実施主体：学校法人片山学園（山口県）

成果目標：①施設利用者数

現状値（R1）0人、目標値（R6）9,040人

②単位面積当たりの地域材利用量

現状値（R1）0 $\text{m}^3/\text{m}^2$  目標値（R6）0.257 $\text{m}^3/\text{m}^2$

整備施設：小郡幼稚園



（分棟形式による存在感のある景観）



（縦ログ構法による木あrawし仕上げの内外装）



## ポイント

### 【取組概要】

地域産無垢材を一定の長さに揃えて連結した壁柱「縦ログ構法」を用いた、木と触れ合い親しむことができる自然素材の木造園舎の整備。

### 【成功のポイント】

材工分離発注により多くの地域材を確保し、地域で加工可能な縦ログ構法を用いることで、伐採・製材・乾燥・加工・建方の関係者による川上から川下までの地域連携型の木造モデルを実現。

## 事業効果

### 【事業実施による効果】

木造園舎が集落のように連なった景観は地域に木造のモデル施設として存在感を示すとともに、教育・林業・建設関係者に向けた施設の視察や研修の実施、園児・保護者・地域住民への施設の利用やイベント等を通じた森林・林業・木材利用等に関する普及啓発活動に取り組むことで、木材利用の促進に寄与している。

施設利用者数（実績値：（R2）18,460人、（R3）21,480人）

単位面積当たりの地域材利用量（実績値：0.525 $\text{m}^3/\text{m}^2$ ）

## 事業概要

未利用間伐材等活用機材整備（木質バイオマス利用促進施設の整備）

事業実施主体：坂井森林組合（福井県）

成果目標：木質バイオマス利用量 現状値（R1）7,634 $\text{m}^3$

目標値（R6）11,100 $\text{m}^3$

導入施設等：移動式チップパー・グラップル



（大型移動式切削チップパー）



（移動式破砕チップパーによる中間土場での枝条チップ化）

## ポイント

### 【取組概要】

加工コストが掛かっていた小型固定式チップパーを大型の移動式切削チップパーに切り替え、材の運搬やチップ加工に掛かる工数を大幅に低減。また、既存の移動式破砕チップパーにも余力が出来たため、中間土場での枝条チップの生産を新たに開始し、大幅な生産増を実現した。

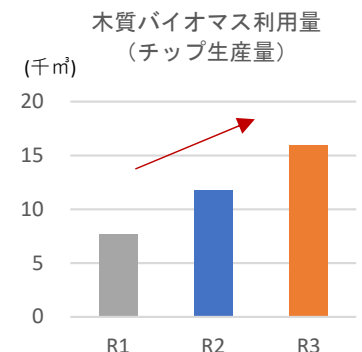
### 【成功のポイント】

生産工数を管理、改善し余剰な労働力を新たな商品生産に充てた。また、販路拡大により県外にも出荷先を確保し、安定的な出荷を実現した。

## 事業効果

### 【事業実施による効果】

- ・発電、熱利用向けの切削チップに加え、発電用の枝条チップの生産も実現し、木材の有効利用が促進された。
- ・ウッドショックに伴う発電用チップの調達難に対し、枝条チップの安定供給につながった。
- ・現在は近隣の森林組合にも枝条チップ生産の取組が広がりつつある。



木質バイオマス利用量が109%増加（R3実績値15,949 $\text{m}^3$ ）